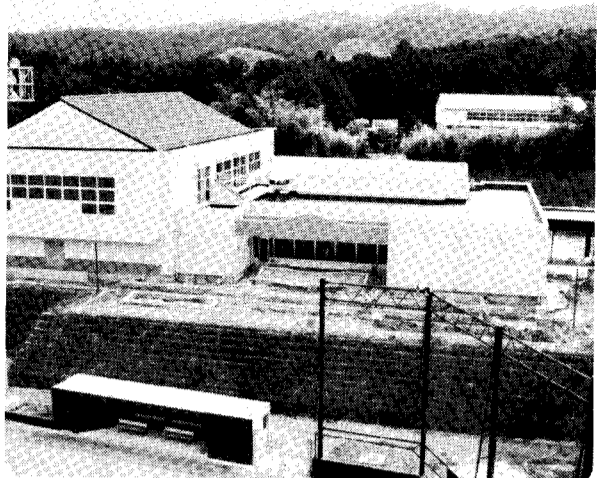


小須戸公民館報

町館 信日
戸民 常日
須公 15
小中 成月
中成 毎月
発行 日毎
印刷 所南昭栄堂印刷所

いつでも、気軽に、誰にでも ふれあい会館オープン しました。



オープンしたふれあい会館全景。多目的ホール、調理室など実用的な施設となっている。後ろに見えるのは矢代田小学校。

「ふれあい会館」の建設
このたび、矢代田の小学校前に「ふれあい会館」が完成しました。ふれあい会館の建設については昭和五十七年に土地造成が行われた頃より話が進められ、具体化したのは昭和六十一年でした。会館建設費は約三億円、町の単独事業ではありませんが、昭和五十九年から国が推進する「町づくり特別対策事業」の一環として建設されました。会館の延べ面積は一、七七㎡で和室一、研修室二、調理室、多目的ホールがあり、冷暖房が完備された施設となっています。

ふれあい会館の使用について
ふれあい会館の設置目的は、「町民の生活及び、福祉の向上並びに教育、文化の発展に寄与するため」となっています。施設の性格は町民会館的なもので誰でも使用できる事になっています。但し、

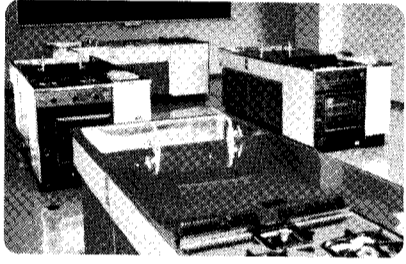
ふれあい会館の設置目的は、政治団体等の使用についても制限がありません。もちろん個人にも貸し出す事になります。ですから個展や物品の展示即売会にも充分対応できる施設だということです。
それでは、ふれあい会館が建設された事で中央公民館にとっては、どんな関わりあいが出てくるでしょうか。公民館は旧小学校単位で分館が四つと町全体にわたる中央公民館があります。分館の活動は地区にある集会所や研修施設を利用して行っています。現在、町全体を対象とした公民館活動は主に中央公民館施設を利用して行っています。今回、ふれあい会館が完成したことによって二つの施設を使って実施できるようにになりました。より参加しやすく、より身近な活動へと結びつけて行く考えです。しかも、現在の中央館が抱える、利用団体の多さからくる会場確保につ

ちよこつと一言 (31)

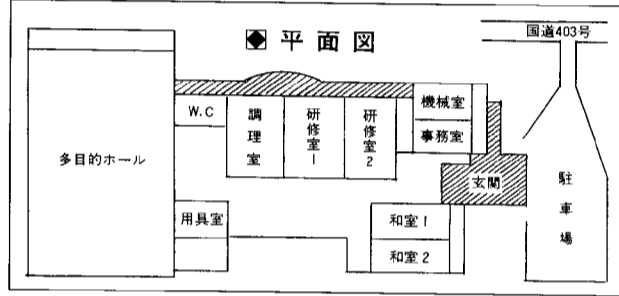
私は、若い頃、陸軍の初級指揮官養成学校歩兵生徒隊に入隊を命ぜられました。その時、区隊兼戦術教官から「今、生きている事は死ぬ事につながり、又一生懸命とは祖先の霊を守り、家族を守り、ひいては国を守るのにつながる事を忘れるな」と機会あることに教えられました。五十年の歳月が流れても可愛



孫を見て
中央町五
浦井富雄さん
い孫達の顔を見るたびに教官の教えが強く思い出され、今の政治屋は与野党を問わず、その場凌ぎでなしに、これからの地域社会と日本の国、国民の進むべき方向を過去に因われず一生懸命になって明示して戴きたいと思ひます。このままでは未来ある子供達が本当に可愛いらすのでない今日この頃です。



調理実習室も用意されている。



いても容易となり活動の幅も広くなるかと考えています。具体的には米年度からふれあい会館を利用した講座・教室・図書の出し等を行う予定です。詳細については現在検討中であり、年度末には公民館報でお知らせする予定です。
尚、教育委員会では、ふれあ

おばあちゃん ありがとうございます

秋晴れの九月二十日、老人クラブのおじいちゃん、おばあちゃん達が、道路や公園をきれいに掃除しようと始められたものです。
今年も約二百人の人達が私達のためにたくさん汗を流してくれました。
おじいちゃん、おばあちゃん本当にありがとうございます。



老人クラブ一斉奉仕の日
柏崎刈羽原子力発電所を見学
九月十九日、小須戸分館婦人のついでに柏崎刈羽の原子力発電所を見学してきました。参加者は美人のお姉さん十八人とどーもい男二人の計二十名。発電所の仕組みなどを中心に講義や見学をしてきた。感想の中には「電気を作るのは大変。」「でも原発は必要です。」「という声もあり日頃何気なく使っている電気に関心を持ったようである。

矢代田クラブ無敗優勝へAブロック 第十七回ナイターリーグ戦終了

第十七回目を迎えた小須戸町ナイターリーグ戦。今年はA・Bの二ブロック制となり、Aブロック十二チーム、Bブロック十三チームの計二十五チームが参加した。五月七日の開幕から百四十四試合が行われ、Aブロックは十一勝一分けで無敗(たいしたもんだ)の矢代田クラブが二年ぶり三回目の優勝を、Bブロックは九勝一敗二分のモンスタースが初優勝した。本塁打も計十四本飛び出している。大会を支えてくれた野球連盟と分け審判部の方々、本当にご苦労さまでした。



第十七回町民野球大会結果
優勝 センターズ
二位 金山ビギナーズ
三位 友好クラブ
四ツ葉クラブ

あいさつ標語入選作品
あいつで人と人が
結ばれる
蔵町三
小池有美さん

第二回町民 テニス大会結果

- 今年で二回目を迎えた硬式テニス大会。九月二日、秋晴れのこの日、熱戦というより、和気あいあいの中で試合が行われた。勝負よりもテニスを楽しむ大会といえる。結果は次のとおり。
- 〈男子シングルス〉
優勝 吉田正信(矢代田三)
二位 高野浩和(横川浜)
三位 石黒利則(本町五)
〃 菊部和義(新潟市)
〈女子シングルス〉
優勝 和泉桂子(文京町二)
二位 須藤信子(新保三)
三位 梨本加代子(新潟市)
〃 熊谷十三子(新潟市)
〈男子ダブルス〉
優勝 入倉芳男(本町五)組
二位 菊部和義(新潟市) 石黒利則(本町五)組
高野浩和(横川浜) 宮田 正(松ヶ丘)組
渡辺 徹(加茂市)組
〈女子ダブルス〉
優勝 和泉桂子(文京町二) 梨本加代子(新潟市)組
二位 須藤信子(新保三) 須藤玲子(新保三)組
三位 熊谷十三子(新潟市) 石本紀美枝(天ヶ沢)組

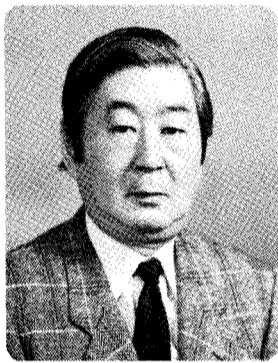
「糖尿病教室」日程
変更のお知らせ
広報こすど10月号でお知らせしました糖尿病教室の日程を、講師の都合により、十月二十六日(金)を二十五日(水)に変更いたします。

期日 **11月18日(日)**
 会場 小須戸町中央公民館三階ホール
 出演団体数24団体 (詩吟・民謡・コーラス・カラオケ
 大正琴・舞踊・尺八)
 主催 小須戸町文化協会
 小須戸町中央公民館



第六回 芸能祭

芸能団体が勢揃い



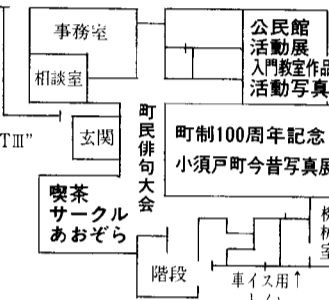
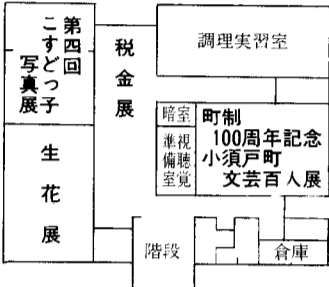
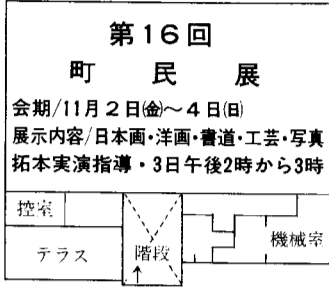
町制百周年記念
文化講演会
 依孝太郎先生来町
 期日 十月十七日(水)
 午後七時開演
 会場 小須戸町中央公民館三階ホール
 演題 「内外の政治経済と日本の立場」

了専寺は、建暦元年(一一二一年)矢代田に建てられ、元和元年(一一六五年)小須戸に移された。(寺院明細帳より)了専寺は文化十三年(一一八一年)前寺の正運寺による火災で焼けてしまった。この火災で町の大半は焼けたが、町民が力を合わせて再建する事になった。本堂再建の頭梁は上川片貝と、下町の本望久兵衛大工であった。再建も一段落した頃、二人は向拝の柱の彫物はどうなるか悩んだ。仲々思いつかない日、見なれ

了専寺に残る龍頭伝説
 「それで明日、この寺にふさわしい彫物を持ってきましょう。」そう言う二人の前から立ち上がり、老人はにこにこしながら重そうに風呂敷包みを持ってきた。中身は見事に彫られた龍頭が二つ。二人はその見事に驚いた。その二人は老人は「この龍頭はこの寺に寄進します。この龍が寺を永く護ってくれることでしょう。」と言って立ち去った。二人は



あわてて老人のあとを追ったが姿を見失ってしまった。この龍頭、火事の時に口から水をはき了専寺を守ったとも言われている。当時この龍頭は左萬五郎の作と言われていたが後に江戸の名工、石川藤吉の作品らしい事がわかった。了専寺に行ったら名工の作品をぜひ見て欲しいものだ。



今年是小須戸町が町制百周年を迎えた記念すべき年です。文化祭も記念の催し物を行います。まず文化講演会は著名な依孝太郎さんにお話し、文化祭は文芸百人展と今昔写真展を催します。芸能祭も一段と充実しています。さあ、見て聞いて楽しんで下さい。文化の祭りがやって来ます。

第十六回町民展 文化祭

よつてらっしゃい、みてらっしゃい
文化の祭りがやって来る

詳しくはチラシ、又は中央公民館事務局へどうぞ。
 募集しています

第十六回町民展作品
 期日 十月二十五日(木)
 書道・写真・絵画・工芸 外
 第四回こすどつ子写真展
 こどもの笑顔、泣き顔などをネガフィルムを添えて申し込み下さい。素敵な記念品を差し上げます。
 期日 十月二十三日(火)



トリットボール小須戸町大会
 期日 十月二十一日(日) 午前九時三十分までに集合
 会場 土手添い田保育園跡地
 参加費 一人五百円
 主催 トリットボール実行委員会

初心者エアロビクス教室
 期日 十月二十六日(金) 十一月二日(金) 九日(金)
 午後七時三十分より
 会場 ふれあい会館
 ※詳細は後日連絡します。

矢代田分館文化祭
 期日 十月二十八日(日)
 午前九時から午後三時
 会場 矢代田小学校

ナイスライフ'90
 期日 十月二十一日(日)
 午前九時から午後三時
 会場 中央公民館
 内容 腕相撲大会、もちつき、農産物等販売 体力テスト外
 主催 小須戸町

第35回 小須戸町剣道大会
 期日 十一月三日(土・祝)
 午前九時開会
 会場 小須戸小体育館
 剣道 町民体育館
 主催 教育委員会、柔剣道振興会

菊花展
 期日 十一月二日(金) から七日(水)まで
 会場 小須戸町諏訪神社境内
 主催 小須戸町園芸クラブ外

新保分館文化祭
 期日 十一月二日、三日(金土)
 午前八時から
 会場 新保研修センター

教室作品
 手鏡に奥まで蒼く秋澄めり
 四国路の旅の中なる茸鍋
 児を来せて尾を振る駒に秋澄めり
 寺跡の薄日あつめて芒の穂
 秋澄むや旅の誘ひの電話くる
 秋澄むや太鼓とどろく体育館
 駒村幸世
 長井武雄
 藤井ハルエ
 村山又雄
 風間ヤス
 東樹チヨ

九月例会作品
 小須戸町俳句同好会
 暁の刻を人病む榎の実かな 吉田素糸
 茄子漬の紫紺に女実利かな 佐久間久子
 ナイヤガラ花火しづかに消ゆるまで 中野太浪
 手花火を手の手に渡し覗きいる 小林富沙子
 白鷺の翔つ影白き沼の秋 間島秀穂
 花火師の合図手燭を振りかざし 名古屋彦彦
 予報外れ鶏頭紅をきわめけり 吉田ミナ
 寝返れば緋の鏡掛け秋の宵 田中美根子
 対岸の母も見ている大火花 五十嵐香月
 宵満月出穂田の風を収めけり 間野良遊
 畝幅がどうのこうのと大根詩 丸山盧秋
 まなそこにあるはらからの盆の月 内山越楼

短歌クラブ作品
 雨の夜に鳴く憂き虫の声遠く聞きつ老父の寝息たしかむ 伊藤照溪
 車窓より眺めし川面に若人の声を掛け合ふホトトギス 小林芳子
 慰さぬ言葉はせめて明るく心ととのえ受話器をとりぬ 村山 睦
 秋晴れの野に赤蜻蛉とび交へど人はいうたわす夕焼の歌 佐藤新治郎
 乗客の帽に挿し来し木犀の香り電車の席にた 高橋キヨ

小須戸川柳会
 題「晚酌」
 手伝った日の晚酌はほこらしい 加藤米二
 熟年の晚酌天下もろに飲み 栗原ひさし
 晚酌も孫のお酌で憂き晴らし 吉田源吾
 晚酌を来しみにする玉の汗 長井武雄
 人肌を潤してゆつくり妻の留守 我妻清作
 晚酌が今日生きがいの喉に染み 高橋ただし
 晚酌に虫の音を聴きほろり酔い 松沢キヨ
 晚酌の音が急かせる古所 駒村幸世
 晚酌は腹の立つこと明日にする 藤井春江
 良い事があって晚酌追加され 小見キン
 晚酌のこんだて財布安協せず 安達キヨノ
 晚酌に父の手料理高くとつき 五村タネ
 晚酌を娘と飲んで妻が妬き 保科志枝
 手料理を褒めて一本追加させ 渡辺信子
 晚酌は一本で足りるいい親子 吉田みな